

講評と対策

平成29年度

四天王寺高等学校

入学試験問題



国語

問題内容

配点

出題の意図

1 評論 見田 宗介 「社会学入門」(岩波書店)	37点	文章の構成を考え、全体の内容を理解出来るかどうかを問う。挙げられている事例から構成を理解し、日頃の「常識」に疑義を持つ筆者の意図を理解できるかどうか。
2 随筆 久世 光彦 「花迷宮」(新潮文庫)	43点	感性豊かな随筆を十分に読み取れるかどうかを問う。筆者の子供時代の読書体験から得られた秘められた内面が独特の比喩表現でもって語られるが、それを筆者の心になって理解できるかどうか。
3 古文 「今昔物語集」巻27より	20点	基本的な古文の理解がどれくらいであるかを問う。今昔物語が語る現実離れした話に古文の基本的理解をもって道筋を付け、最後の教訓にまでたどりつけるかどうか。

各問題講評 (具体的に)

- (一)
- 問一 漢字書き取り問題。全問正答率55パーセント。「裕」が「ネ」であったり、「影」が「映」であったり、「信条」が「心情」であったりした。
- 問二 いわゆる常識問題。正答率90パーセント。多かつた誤答はウ。
- 問三 指示語、及び解釈問題。正答率66パーセント。答えるにあたって「さびしい思い」「孤独」なども見落とさないこと。
- 問四 解釈問題。正答率30パーセント。問題の手前だけでなく、傍線部の後にも注目すること。
- 問五 部分的解釈とまとめる力を問う問題。正答率75パーセント。傍線部の後をしっかりと読む必要がある。
- 問六 空欄補充問題。正答率80パーセント。空欄の前後と、関係ある手前を丁寧に読む必要がある。しっかりと読めば「ごちそう」が誤答であることに気付くはず。
- 問七 指示語を絡めた解釈問題。正答率30パーセント。作者の考えが反映されたところで、そのことが分かると利用すべきところが分かってくる。
- 問八 言葉の解釈問題。正答率65パーセント。解答らしき言葉を見つけても微妙な言葉のニュアンスをしっかりと押さえる必要がある。
- 問九 比喩の解釈問題。正答率60パーセント。なかなか難しい比喩だけに、その前後をしっかりと読む必要がある。
- (二)
- 問一 漢字書き取り問題。全問正答率40パーセント。どれも結構難しかったようだ。日頃から漢字書き取りの練習をしっかりとしておく必要がある。
- 問二 心情読み取り問題。正答率70パーセント。選択肢の正確な読みが求められる。
- 問三 語句の意味問題。いわば言葉の常識問題。正答率60パーセント。これも中学校での丁寧な学習が求められる。
- 問四 解釈問題。正答率40パーセント。問に対して的確にその解答に当たるところを見つけ、使える言葉も探す必要がある。要は読解力ということになる。
- 問五 解釈問題。正答率45パーセント。「見くびる」が分かるかどうかかまず問題。前問と同じく読解力ということになるが、言葉の理解があつての読解力で、その点ではやはり中学校での丁寧な学習が必要だ。
- 問六 空欄補充問題。正答率95パーセント。良くできていた。この後に感性的な文章が続くが、流れを見失うことなく読めていたようだ。
- 問七 抜き出し問題。正答率80パーセント。これも比較的良くできていた。文章を前後関係の中でしっかりとらえる力が求められる。
- 問八 言葉の問題と解釈問題。(1)(2)とも正答率50パーセント。やや古めかしい言い方にとまどったかもしれないが、これも日頃から読書を通じて言葉になれておく必要がある。
- 問九 解釈問題。正答率60パーセント。具体的に見えるが、非常に感性的な比喩で、そこが分かるかどうか。比喩に隠された真意を見抜く必要がある。
- 問十 解釈問題。前問と同じく具体的に見えて感性に彩られた比喩表現の解釈。正答率30パーセント。受験生にはかなり難しかったようだ。真意をつかむという点では前問と同じだが、一連の文脈の中で作者の真意をつかむ必要がある。
- 問十一 修辭を問う問題。正答率60パーセント。しっかりと選択肢を読み、当てはまるものを見いだしていかなければならないが、選択肢を読むのも読解ということだ。
- (三)
- 問一 古文読解問題。正答率80パーセント。比較的良くできていた。中学校で基本的な古文に親しむということになろう。
- 問二 同じく古文読解問題。正答率95パーセント。良くできていた。前問と同じく基本的な古文に中学校から親しむということになる。
- 問三 基本的な古語の解釈問題。正答率③70パーセント、⑦60パーセント。前問と同じく基本的な古文に親しみ、基本的な古語の理解も進めるということになる。
- 問四 古文解釈問題。正答率85パーセント。問題箇所に係り結びや推量の助動詞などありやや難しいが良くできていた。文脈から正解の選択肢を見つけることが大事になる。
- 問五 同じく古文解釈問題。正答率85パーセント。良くできていた。指定された会話文をしっかりと読み、対応を考えると言うことになる。
- 問六 同じく古文解釈問題だが、「例の」の意味が取れるかどうかのほぼ古語問題。正答率85パーセント。これも良くできていた。言葉の意味はやや難しいが、文脈から意味をおさえることがポイントになる。
- 問七 空欄を現代語で補充する問題。正答率85パーセント。これも良くできていた。問題文をよく読んで文脈の中で答えを見いだす必要がある。大きな流れを見失わないことだ。

次年度入試 アドバイス

どの問題にあつても問題文をしっかりと読み、内容を把握することには変わりはない。評論は文章構成に留意し、小説や随筆など文学的な文章は必ず心情があるので、その把握に努めるということになる。その上で問題の意図するところを間違いなく読み取り、的確に答えていくことになる。古文にも中学校の授業や演習で充分慣れておくようにしよう。

演習問題に取り組むことはもちろん必要だが、日頃から辞書を脇に置き、興味を持って読書に取り組んでもらいたい。それが将来の飛躍に必ずつながる。

数学

問題内容

配点

出題の意図

1 計算問題・2次方程式	20点	式の計算、因数分解などの基本事項の確認。
2 連立方程式・確率	17点	題意を理解して、正確に解くことができるか。
3 平面図形	16点	相似の理解度の確認。
4 文字式・空間図形	17点	文字式の利用と空間図形をとらえる感覚を問う。
5 2次関数と直線	14点	2次関数のグラフと多角形の面積を絡めて総合力を見る。
6 空間図形	16点	空間図形の切断を正確に理解しているか問う。

各問題講評

全体として、51%程度のでき具合であった。

- 70%の正答率であった。全問完答したい問題である。(3)では、 $(x+2)(y^2-4)$ で終わっているものがあつた。また、因数分解できるはずである。(4)は、 $2x-1=x$ として因数分解すれば解決する。
- 60%の正答率であった。[1]では値を逆にしているものがあつた。また、求めた x, y の値の入れかえを忘れていたものもあつた。問題文をていねいに読む必要がある。[2](3)は1,2,3の並べ方を1通りとしているものもあつた。
- 65%の正答率であった。(2)では相似比から2次方程式を考えていけばよいであろう。(3)では四角形DBECの面積が $\triangle ABC$ の面積が等しいことを注目すればよい。
- 20%の正答率であった。[1]は具体的な数で計算方法を確認することで様子が分かり、文字であっても同様に考える事が出来れば解決する。[2](1) $\triangle PCM \sim \triangle PFE$ に気付くと簡単である。(2)は切り口の形を理解する事がポイントとなる。
- 65%の正答率であった。(1)はよくできていた。(2)では、四角形AOCBの対角線OBを引き、 $\triangle OCB$ の面積に着目することでPの座標は求まる。(3)では、 $\triangle APB$ の底辺ABを求めれば、あとは容易に解答できるであろう。
- 25%の正答率であった。(1)、(2)では、3点A,P,Gを通る平面で切ると直方体の体積は2等分され、QはEF

の中点であることに、(3)では、四角形AQCPがひし形であることに気付くと容易に解答できる。

次年度入試 アドバイス

例年、中学1年から3年までの全分野よりかたよりに出題し、正確な計算力が身についているか、基礎事項が理解されているか、題意を読み取り論理的に考えていくことができるか、を試すことができるように作成している。正確な計算力と柔軟な思考力が試されるので、すばやく計算する練習と、すぐにあきらめずじっくりと考える練習を2つの柱として準備をしてほしい。三角形の相似、合同、面積、文章から連立方程式や2次方程式を立てて解く問題、立体図形、場合の数、確率などは、よく出題されているので特に力を入れて勉強しておこう。

しかし、難問などを練習する必要はなく、標準問題を中心にどのような基本的事項が使われているのかを確かめながら勉強しておくことが最も有効な対策である。その際、ケアレスミスに注意してほしい。「符号のミス」、「比を書くときに、左右を間違っている」、「もう因数分解できないか」など、気をつければ点を落とさなくてすむミスが多く見受けられる。

最後に、過去の問題は必ず解いておこう。その際時間配分に注意し、解ける問題が時間不足でできなかったということのないようにしよう。

英語

問題内容

配点

出題の意図

I 長文（物語）	25点	英文読解と内容把握力をみる
II 長文（エッセイ）	27点	英文読解と内容把握力をみる
III 会話文	10点	対話形式の文の読解力をみる
IV 2文同意	8点	単語力と表現力をみる
V 整序	8点	英文の構成力をみる
VI 英作文	10点	英文の構成力をみる
VII 語彙	4点	単語力をみる
VIII アクセント	4点	音声の定着度をみる
IX 発音	4点	音声の定着度をみる

各問題講評

- [I] 若者に夢を持つことの大切さを伝えるために、1人の男性が自身の体験を語ったもの。話題的に読みやすく、正答率は6割を超えたが、問1の和訳については5割程度であった。ask ~ to doの受動態が難しかったようである。また時制の一致の部分で「何がしたかったか」と日本語にしている解答が多かった。a paperを「紙」としているものも目立った。
- [II] 色を用いた表現について述べたエッセイ。正答率は例年通り[I]より低い。解答時間の不足と考えられる。常識的、一般的な内容のものは出題されないで、読解するのに十分な時間を確保することが大切。問1はbadやblack and whiteなどの誤答が多く、問3は答えとなる箇所の取り間違いが多かった。問4では2,3が5割の正答率と低めであった。
- [III] 対話文。日本人教師がALT（英語指導助手）にインタビューしている形式になっている。身近な話題なのでとっつきやすかったのか、正答率7割と高かった。問5はYesの答えが多く、次の文が読めていなかった。
- [IV] 2文が同意になる空所補充問題。過去にもよく出題されているパターンの問題なので、正答率は高かった。3の時制の間違いが目立った。
- [V] 9割近い正答率。誤答として、2 want to ~ となっているもの、3 more thanと続けているもの、4 that people make happyしているものが目立った。
- [VI] 例年より配点が多く、1から4まで連続性のある英作文となっている。2,3,4は型どおりの表現を用

いればよい。正確に書いていたが、1をI am coming to Kyoto.と、日本語の表す意味をよく考えずに英語にしている解答が多かったのには問題を感じた。

- [VII] 1をearth、2をriseとしているものが多かった。3を単数形にしているものも目立った。

- [VIII][IX] 発音・アクセントを問う問題。正答率は5割程度。毎年のものであるが、発音問題の正答率が低かった。

次年度入試 アドバイス

長文は量的にも内容的にも読みごたえのあるものが出題されます。内容理解なしには解答できない問題が多く、読解のための時間を確保すること、そして落ち着いて、集中して読むことが大切になってきます。入試問題と同レベル、同分量の長文を、制限時間を設けて読む練習を積み重ねてください。文法問題は、毎年あまり出題形式が変わりませんので、過去問を参考にして入試問題集などで練習していけばよいでしょう。今年は英作文の問題が例年より少し多くなっていました。最近では教科書の中でも、自分の考えを述べるなどのまとめた英語を書くことが求められています。書く機会が与えられたら、適当に済まさずしっかり取り組んでください。文章を読む際にも、常日頃から文構造を考え、書くときに使えるような表現があれば書き留めておくなどライティングにつながるリーディングを心掛けてください。

理科

問題内容

配点

出題の意図

1 塩化銅(II)水溶液の電気分解	15点	水溶液の電気分解を理解しているかどうかを実験とともに問うた。中和により中性になった溶液の電気分解は水の電気分解と同様である。
2 生物の呼吸器官	14点	生物の種類によって酸素を取り込むしくみが異なることが正しく理解できているかを問うた。さらに鳥の「気のうちシステム」について考察する力を問うた。
3 レンズとばね	25点	光の進行方向を空間的に考えられるかどうかと問うた。また、力のつり合いと作用・反作用の理解をバネを題材として問うた。
4 溶液の分離	10点	いろいろな水溶液の識別方法と、水とエタノールの混合溶液の分離を問うた。
5 細胞の呼吸	11点	発芽種子の細胞呼吸における酸素吸収量と二酸化炭素放出量の関係を考察する力を問うた。
6 太陽の成り立ち 石灰岩	25点	太陽の動きと地球上の光の関係をヒントを与えながら考えさせた。またカルスト地形の成り立ちを問うた。

各問題講評

- 60%位の正解率であった。問題文を読まずに、電気分解で起こる反応式を問うているのに電離式を書いたものが多かった。
- 50%位の正解率であった。魚類のえら呼吸についてはほぼ全員解答できていたが昆虫の気門や気管呼吸については正答率が低かった。(4)で人の呼吸運動で肋骨の動きと横隔膜の動きをわけて考えられていなかった。また、(5)は人と鳥の呼吸を対比させる問題であるのに理解できていないものが多かった。
- できが悪く25点中11点くらいと思われる。レンズを通った光の作図を求めたが、与えられたレンズの図がそれぞれどのように何と対応しているかがわかっていないためうまく焦点を考えられていない答案が多かった。また、バネののびでは、おもりの質量とのびを対応させることができていないものが多かった。
- 比較的よくできていて、65%位のできであった。蒸留水と他の溶液はどのようにして見分けるか科学的知識を持たなくても日常生活の中から学んでほしいものである。また、蒸留装置について、枝付きフラスコが付付きフラスコになっている誤字が多くみられたのは残念である。
- 種子を用いていること、光をさえぎっている条件から光合成は行われていないのだが、酸素の放出や二酸化炭素の吸収を考えている誤答が(4)、(5)で見受けられた。実験の結果から考察を行う問いであったが、指定された条件をしっかりと確認して答えてほしい。
- Iは、50%の正答率であった。ヒントをうまくいかした作図をすると正解にたどりつくのだが、難しいという先入観に支

配されて考えられなかった人が多かったようである。IIはよくできていた。

次年度入試 アドバイス

以下に理科の対策を列挙しておくので、しっかり準備しよう。
☆中学の理科で学ぶ重要な「用語」や「化学式」、「単位」などを正確に理解すること。

☆特に本校では実験や観察に関する問いも多いので、教科書で扱われている実験については、実験操作の意味もしっかり理解し、積極的に実験を体験すること。またデータの処理に関し、グラフの作成や読み取り、計算力をつける学習を大切にすること。実験結果や観察結果から考察する問題では、必ずそのヒントが問題中に含まれている。しっかり読み解くように訓練する必要がある。

☆生活の中で体験する身近な現象などに、日頃から関心をもつよう心がけること。

☆過去の問題を解いて「問題形式」や「解答方法」などに慣れるとともに、問題文をしっかりと読み取るトレーニングをすること。

☆記述題では、理科の用語を的確に用いるとともに、わかりやすい表現が出来るように心がけること。自分で文章を書いてみるのが大切である。また、誤字脱字にも注意が必要である。

社会

問題内容

配点

出題の意図

1 地理分野 (南アジアおよび東南アジアの地誌)	16点	南アジアと東南アジアの国々について、統計資料など用いてそれぞれの国の特色を問うた。
2 地理分野(北海道の地誌)	14点	北海道に関して、統計や写真などを用い、基本的な知識を問うた。
3 歴史分野 (世界諸地域の歴史)	20点	図版や地図なども用い、世界諸地域の歴史を問うた。
4 歴史分野 (江戸～明治初期の歴史)	13点	江戸時代～明治時代初期の政治・経済・文化に関して、地図や図版などを用いて問うた。
5 歴史分野(テーマ史)	7点	夏季オリンピックを題材としつつ、古代の遺跡や、近代の政治・経済に関して問うた。
6 公民分野 (政治・経済の問題)	20点	国会・内閣・裁判所の役割、社会権、日銀の役割、租税、企業、労働基準法に関して問うた。
7・8 公民分野(時事問題)	10点	7も8も2016年4月以後の日本や世界での出来事に関する時事に関して問うた。

各問題講評(具体的に)

- 1 統計データを読み取る問題を出題したが、比較的正確率は高かった。南シナ海に関する問題も時事問題の要素もあるが、半数以上の受験生が正答した。
- 2 比較的正確率は高かったが、地名に関する問題は正確率が低かった。問4問6のような写真や統計などを読み取って、知っている知識と結びつけることができたかが、得点差につながっている。
- 3 問1、問7(7)、問8の正確率が特に低かった。図版や世界の同時代の地域の出来事への理解の差が、得点差につながったのかもしれない。
- 4 図版を用いた問5、地図を用いた問6の正確率が特に低かった。問4問7に関して、漢字を間違えた受験生が少なからず見られた。
- 5 どの問題も比較的正確率が高かったが、図版を用いた問1の正確率がやや低かった。
- 6 全体的によく出来ていたが、経済的分野の正確率がやや低かった。
- 7・8 7に関しては全体的によく出来ていたが、AとCの問題の正確率がやや低かった。8に関しては完答できた受験生はごく少数であったが全体的にはよく出来ていた。正解がいくつあるのかも自ら判断することが難しかったのかも知れない。

次年度入試 アドバイス

【地理分野】

地名については地図を用いてその場所もしっかりと確認しておくこと。統計データはそのまま覚えても正解できるとは限りません。地理用語も言葉を覚えるのではなく、その内容の理解が重要です。数字や用語を丸暗記するのではなく、データが意味するところを判断したり、関連する事柄まで考えを広げてください。「暗記する」のではなく「考える」のだという姿勢で学習に取り組んでください。

【歴史分野】

5W1Hを意識しながら、教科書などを用いて基本的事項の理解を徹底してください。重要語句の暗記に終始するのではなく、年表をみて、できごとの時系列的な理解に努めてください。その際、できごとの原因や背景まで考えるようにしてほしいと思います。また、教科書や資料集にのっている図版や地図にも、すみずみまで目を通して置くこと。

【公民分野】

政治的分野も経済的分野も教科書の本文だけでなく、注釈・欄外・表等も含めてしっかり学習しておいて下さい。時事問題に関しては普段からテレビのニュースや新聞などに関心を持って、学習を深めて欲しい。その際、日本と世界の両方の出来事に関心を持って欲しい。

【全般】

地理分野・歴史分野・公民分野を全体的にバランス良く学習することが求められる。普段から教科書だけでなく、地図帳・資料集・新聞なども活用して、幅広い知識を身につけるような学習をして欲しい。